

第32期目録委員会記録 No.13

第13回委員会

日時：2010年5月22日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：原井委員長、東、木下、酒見、高橋、鴫田、平田、古川、横山、渡邊
<事務局>磯部

[配付資料]

- 1.ISO/TC46 SC9報告（2ページ-A4、原井委員長）
- 2.The Vocabulary Mapping Framework matrix（5ページ-A4、原井委員長）
- 3.目録の作成と提供に関する調査（4ページ-A4調査用紙、酒見委員）
- 4.松岡氏の提案（下線部）に対する意見一覧（3ページ-A4、古川委員）
- 5.目録調査シート意見・感想（3ページ-A4、木下委員）
- 6.「目録の作成と提供に関する調査」について（お願い）（1ページ-A4、原井委員長）
- 7.NCR改訂の方向性について（検討メモ 平成22年5月22日改訂）（5ページ-A4、原井委員長）
- 8.NCR改訂の理由（1ページ-A4、古川委員）
- 9.関連指示子(relationship designator)一覧（3ページ-A4、古川委員）
- 10.第32期目録委員会記録 No.11（3ページ-A4、事務局）
- 11.第32期目録委員会記録 No.12（案）（3ページ-A4、事務局）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

第12回記録案（資料11）を確認した。

2. ISO/TC46 SC9報告について

資料1に基づき、韓国の済州島で行われたISO/TC46総会等で、標準番号、識別子などを扱うSC9に参加した原井委員長より説明があった。

資料に関わる著者、演奏者の標準番号間の連携を目指すISNI、DOIのISO化、各機関が所有するコレクションの識別子であるISCIが紹介され、SC9が各標準番号、識別子の連携を目指している状況が報告された。

3. 全国図書館大会分科会について

渡邊委員より、発表者4人への委嘱状送付と原稿依頼が6月半ばくらいにある予定であることが報告された。

4. ISBD統合版草案について

渡邊委員より、ISBD統合版草案の意見受け付けが、7月11日までであることが案内され、

各自草案を確認することになった。

5. RDAのオープンアクセスについて

古川委員より、RDAが6月半ばから8月31日までオープンアクセスになり、サインアップが勧められていることが報告された。各自で行うことになった。

[検討事項]

1. 目録に関する調査について

木下委員より、公共図書館・大学図書館職員に試行的に回答していただいた結果についてまとめた資料4、5に基づいて説明があり、調査票改訂の要非について検討した。調査票の修正点は次のとおりとなった。

- ・ 問1の1の選択肢2に「MARC購入」を加える。
- ・ 問1の2の業務内容例を公共図書館向けに提案されたものと差し替える。
- ・ 問1の4の設問に「（常勤のみについてご回答ください）」を加える。
- ・ 問3の選択肢に「5.分らない[問4へお進みください]」を加える。
- ・ 問4の設問に「（MARC購入を含む）」を加える。
- ・ 問4の1の選択肢3に「新規受け入れの資料については」を加える。
- ・ 問6の5の選択肢5の「OPACの中」を削除する。
- ・ 問7の6の選択肢1を「データの訂正」を削除する。

調査依頼文（資料6）に、「2010年時点の日本国内における図書館目録の状況を後世に残すために」を加えることになった。

また郵送、FAX、webフォーム、ダウンロードするファイルの4通りの回答方法を用意することになった。

アンケート回答締め切りは7月末日とする。

2. NCRの改訂について

原井委員長より資料7に基づいて説明があった。統一タイトルと書誌階層について、前回の検討を踏まえ要件に入れた。構成については結論を出さず、今後の論点として残すことを確認した。今回は関連指示子について検討した。主な意見は下記の通りである。

- ・ 論点に「非基本記入」という言葉を使い続けるのか。記述ユニット方式という言葉にしても、議論を基本記入、非基本記入方式のどちらを選択するかというような、一定の方向に導いてしまうのでは。
- ・ 今のNCRを継続ということを出すのではないが、基本記入をとる方針でもないの、表現が難しい。
- ・ 論点1の 、 の両方にある用語集についてはまとめる。

3. NCR改訂の理由について

古川委員より資料8に基づいて説明があった。主な意見は下記の通りである。

- ・ NCR改訂がなぜRDAの翻訳ではいけないのか、ということと同時に、目録委員会としてRDA自体を翻訳しないということの説明も必要。
- ・ RDAの目次だけ翻訳してオープンアクセスとしてはどうか。
- ・ 典拠コントロールの徹底性を、NCR改訂の理由として示すべきか疑問。何をコアエレメントとするか、RDAと同じ構成であっていけない理由にはならない。
- ・ RDAの翻訳をNCRに代えた場合、RDAでコアエレメントとなっているものを、日本でコアエレメントにしないということができるか。JSCに確認する必要があるが、認められるとは思えない。
- ・ NCRの継続性という時、これまでのNCRの改訂ごとに変化があるが、その中で貫いている書誌階層などNCRの独自性をどう考えるか。
- ・ 例に関してはRDAのままで済まない部分が多い。規定が詳細で膨大だが、和古書漢籍に関する部分がRDAにはないなど、そのまま日本で使えないところなどが、NCR改訂の理由付けになるのでは。
- ・ 日本の典拠コントロールの状況とRDAの橋渡しができる目録規則で、やりたい機関は典拠コントロールをできる目録規則を作るべき。
- ・ NCRは記述の精粗の第1水準から第3水準までであるが、RDAはコアエレメントとそうでないものの二段階となっているところをどう考えるか。
- ・ FRBRの考え方に基本的には従ってNCRを改訂し、継続性を考慮しながら、実際に使える現実性のあるものにしてゆかなければならない。

4. 関連指示子一覧について

古川委員より資料9に基づいて説明があった。主な意見は下記の通りである。

- ・ 関連の3つの種類をNCRでどう扱ってゆくのが良いのか。今までの目録規則にはない発想をどういう風に位置づけるか。
- ・ 二段階になっている、Creatorの下のAuthorなどが、重なったりすることはないのか。重ならないなら、著作から体現形まで分かれた目録でなくても、著作レベルの結びつきと、表現形レベルを弁別することができる。
- ・ NCRに取り入れるかという時、言語上の問題がある。RDAは細かく表現している事柄を日本語でどこまで表現しきれるか。
- ・ 二番目の種類の、資料相互の間の関連は、書誌階層がからんでくると、理解が難しい。
- ・ FRBRとRDAの扱う関連づけというのは必ずしも一致しない。RDAの方が範囲が広い。
- ・ RDA未刊部分の主題標目に関しては考えたいが動きようがない。FRSADも抽象的などころにとどまっている。主題標目は現在と同程度で扱う。
- ・ 家族の扱いは今までAACRでは扱っていないが、RDAもICPも、個人、家族、団体の3区分にしている。NCRも主題として必要なため、概念として取り入れていきたい。

原井委員長から6月辺りに対象資料、刊行形態についての扱いと、コアエレメントをどう考えるかの2つについて検討することが提案された。

古川委員より、NCR改訂作業の方法として、RDAの構成に合わせて全員で分担すること

が提案され、9月の図書館大会目録分科会後、他の案も含め検討して作業体制を決めることになった。

目録分科会後はコメント募集対応と、アンケート集約作業を始めることが確認された。

次回以降の委員会の予定

6月26日（土）

7月31日（土）

9月4日（土）